

現代ビジネス攻略書

やまー
[著]

自由 じゃなければ、 人生 じゃない。

お金・時間・人間関係、
何事にも縛られない。

築30年の独房のような
ポロアパートに住んでいた
貧乏大学生が一体なぜ、
Twitterを使って
タワマンに住み
何不自由ない生活を手に入
れることができたのか？

652部
突破!

いつのまにか
歩かされていた
誰かのためや
会社のための人生ではなく

“自分の人生”
を取り戻す!

自由じゃなければ、
人生じゃない。

やまー

目次

はじめに

毎日の朝ごはんは25円のパン一切れのみ。母子家庭で生きていく人生時給1000円の居酒屋バイト大学生から、たちまち月収100万円ビジネスマンに。

自由じゃなければ、人生じゃない。

『真の自由』を手に入れるための4つの自由

お金の自由

時間の自由

精神の自由

場所の自由

真の自由を実現するためには、真の自由を実現できる働き方をしなければいけない

前編:お金の章

サラリーマンより、副業でも起業でもいいから自分で稼ぐほうがはるかに稼げる

ほんの数十年前よりはるかに簡単になった独立・起業・副業

今の時代だからこそできるツイッターを使ったコンテンツビジネスという手軽に取り組める令和のドル箱

世界のどこにいても自由自在に稼げる

最終的に自動化が可能

時代を超えて稼ぐための本質的なビジネス力が自然と身につく

『稼げなくなるリスクを限りなくゼロにする』ことで精神的自由まで達成すると得られる『究極の自由』

第一部のまとめ

後編:思考の章

あなたの行動、そして未来はすべてあなたの持つ『思考』によって決まっている

とんでもない洗脳だらけの日本の常識

『価値提供』ができれば1秒も働かないニートでも月収100万円

1勝9敗でも自分の理想の未来に向かって進み続ける

自分の人生で『やりたくないことリスト』を作り目指す未来を明確にする

『自分の目指すライフスタイルの』成功者の真似をする

貯金より投資、そして貯金の金額より『お金を生み出せる自分のスキル』に重きを置く

第二章まとめ

終わりに

はじめに

毎日の朝ごはんは25円のパン一切れのみ。母子家庭で生きていく人生

小学校に入るところにどうも父親の会社の業績が傾き、家庭内に険悪な空気が漂い始めた。一家の幸せの象徴であった一軒家も売り払い、逃げるように千葉の田舎の団地に引っ越した。

もともと苦しかった家計は、両親が離婚したことによってさらに厳しいものとなった。

毎日の朝ご飯は15円くらいのパン一切れのみ。なるべくお金をかけずに長時間できる趣味がゲームだった。

なんとか大学受験を乗り越え、東大に入学して一人暮らしがスタートしたものの、光熱費、食費などなど次々と降り掛かってくる支出をどうにかやりくりしなければならなかった。

ほとんど寝るスペースしかないような激狭ボロアパートの家賃は5万円もした。



(イメージ画像。)

塾講師と居酒屋バイトを掛け持ちして、時給1000円で100時間頑張って働いて
やっと10万円。

そのうち半分がボロアパートの家賃で一瞬で消え去り、残りのお金も光熱費や、
食費、学費の支払いにあてるための貯金で瞬く間に消えていった。

人生の楽しみ、私の本当にやりたいこと、私の趣味、仲間と過ごす時間、全てが
二の次だった。寝ても覚めてもお金お金お金...お金のことばかり考えていた。

必死になって穴の空いたバケツに水を注いでいるようだった。

月収100万円ビジネスマンに。

ある日、ぼーっと**Twitter**を眺めていると徐々にビジネス系のツイートが目にとまるようになった。何気なく見ているうちに「これ、俺にも出来るのかな...」と、ビジネスへの興味も強まっていった。

ある時、特に強く興味を惹かれる1人の起業家のアカウントがあった。

彼は27歳で**Web**系のサイト制作やコンサルティングの事業を展開して1年目で年収3000万。新宿のタワマン住み。

最初は正直うさんくさいと思いつつも興味本位で見ていただけだったが、彼の発信を見ていると私もビジネスへの理解度が徐々に深まっていくのが感じられた。

ビジネスに関する知識はみるみるついていき、まるでゲームでプレイヤーがどんどんレベルアップしていくかのように、日々成長していく感覚が楽しかったのを覚えている。

「よし！ビジネスに関する知識は全て覚えた！

後はこれを真似するだけだ！俺もそのままできる！」

と、いざ実行に移そうと思うと、ここで問題が起きた。

細かいところで無数の疑問や分からない点が出てきて手が止まった。

『知っている』と『できる』の間には壁があり、行動に移すときに乗り越えられない課題が数えきれないほどあった。

ちょうどそんなタイミングで、年収3000万円の起業家がメルマガ内で限定募集をかけていた。

「また一人コンサル生が月100万円稼げるようになって卒業し、枠ができたのでマンツーマンコンサル生を追加で3名だけ受け付けます。」

という募集を。

私はそれを見た瞬間

「今度こそ何かが変わるかもしれない...！」

「というかこのチャンスを逃したら、もう今後自分の人生を変える転機は存在しないかもしれない...！」

と思って藁にもすがる思いで飛びついた。

コンサルに申し込んでから一番最初は『セルフバック』というものに取り掛かった。

セルフバックというのは、例えばクレジットカードを普通に作るのではなくて上手くキャンペーンを利用して作ると1万円ぐらい貰える。

そのようなキャンペーンを探して、クレカを3枚作るだけで3万円ほど稼げたりする。たった30分で、だ。

実践してみると本当にその日のうちにさっそく3万円稼げてしまった。私の常識が完全に破壊された。



そこから先はWeb系のスキルを学習しサイトを作ったりサイトにアクセスを集めたりといった案件を獲得できるレベルまで実力がついた。

実力が身についてからは早かった。

企業から案件をゲットし企業のWebサイトを作ったりサイトにアクセスを集めるためにコラムを30記事作成してネット上に掲載したりした。

1件あたり20万から30万円ほどで契約できるので、これらの案件を月に4件ほどこなすようになり、ついに夢の月収100万円を突破することに成功した。

居酒屋でもレストランでもAmazonの通販でも、値段を気にせずクレジットカードを使いまくって、それでも100万円はまるで使い切れず毎月30~40万円ほど余った。

しかも月末になったら取引先の企業から入金あってまた口座残高が100万円以上増えた。毎月使いきれない金額が口座に振り込まれるようになった。

有頂天になったが、1つだけ問題があった。

それは

「激務である」

ということだ。この時の私はで1ヶ月のうち休めるのは2日しかなかった。



毎日ひたすら12時間から15時間ほど働き続けていたが、こんな生活に気合で耐えるのは半年が限界。1年も2年も、ましてや10年や20年も今後ずっと続けていくなんて絶対に無理だと感じていた。

そこで、あまり働かなくても少ない時間でたくさんお金を稼げる方法はないか考え始めるようになった。

そして目をつけたのがツイッターを使ったコンテンツビジネスだった。

ツイッターを使ったコンテンツビジネスなら、仕事で知り合った人で稼いでいる人が何人かいたこともあって可能性を感じずにはいられなかった。

ツイッターを使ったコンテンツビジネスで結果を出そうと決めて、1年間で300万円のコンサルを受けた。

ツイッターを運用開始してから1ヶ月半ぐらい経ったあたりで商品を1つリリースし収益45万円を達成した。

3ヶ月目に別の商品をリリースしたら収益70万円を達成した。その後も収益は順調に伸びて毎月100万円以上収益が生まれるようになった。

ツイッターを使ったコンテンツビジネスの素晴らしいところは企業から案件を受けて馬車馬のように働いていたころと比べて圧倒的に労働時間が少ないことだ。

企業から案件を受けていたころは毎月2日しか休みがなかったが、ツイッターのコンテンツビジネスに切り替えてからはビジネスに費やす時間は週5～6時間程度になった。

(1日に5～6時間の間違いではない。週に5～6時間だ。)

私は紆余曲折しながら念願だったお金と時間から自由になった。

お金と時間から自由になった世界

昔から通いたかったダンスやボイトレなども片っぱしから全部レッスンに通った。

朝起きて「美味しいいくら丼が食べたい気分だな。」とふと思ったからその日に北海道行きの飛行機の便をとるようになった。

北海道のサウナを満喫して心身ともに整え、適当にとった近くのホテルでゆっくり休んでから次の日の昼すぎの飛行機で帰ってくるようなこともやった。

以前友達と3人でマニラに旅行したときはとりあえず行きと帰りの便だけ予約したが途中宿泊するホテルはとらずに全部その日の気分で行きたい観光地に遊びに行った。

ホテルは近くにあった3つ星ホテルや5つ星ホテルたちの中から選んで、現地でスマホでポチっと予約して転々としていた。

月100万円もあれば、居酒屋やレストランやAmazonの通販で物を買う程度であれば値段を気にせずクレジットカードを使いまくってもお金を使い切ることはできない。

ハッキリ言ってあまりにも楽しい。

誇張抜きに、生まれてからお金に縛られ続けてきた20年以上は目に見えるものすべてが灰色に見えて、時間とお金の両方を手に入れてからは目に見えるものすべてが鮮明なフルカラーになったくらいの違いがある。

「日本で生きていくのって、なんでこんなに大変なんだろう...」ばかり毎日考えていた人間が「人生って最高だな。生まれてこれでよかった。」と心の底から思えるようになったのだ。

本書ではあなたがどうすれば自由になれるのか？そんなことを詳しく話していこうと思う。

『真の自由』を手に入れるための4つの自由

ここまで読んでもらって、私がまず稼げるようになり、時間にも縛られなくなったことで自由な人生を手に入れられたことは伝わったかと思う。

しかし、ここで

「自由をな人生を実現するためにはとにかく時間とお金の両方を手に入れること
さえ考えればいいんだ！」

ととらえてしまうと落とし穴にはまってしまうので、本当の自由はどうすれば実現
できるのか？という部分を深掘りして解説していこう。

『自由』と一言に言っても『真の自由』を実現するためには、『4つの自由』を満た
す必要がある。

ではその4つの自由とは

✓お金の自由

✓時間の自由

✓精神の自由

✓場所の自由

である。

それぞれ詳しく解説していこう。

まず一つ目は、お金の自由。

これに関してはわざわざ解説する必要はないだろう。

資本主義社会の日本においてお金があれば、豊かな生活が送れることは周知の事実だ。

もし、毎月何百万円もお金が口座に入ってきたらどうだろう？

値段を気にせず一番食べたい美味しいものを食べることができる。コンシェルジュが毎日出迎えてくれる都心のタワマンに住むことだってできる。キラキラと輝く腕時計を買うこともできる。

お金の自由さえあれば「仕事したくない...」と思ったときに仕事をしなくてもいい。昼過ぎに目覚めて好きなだけ家のベッドでゴロゴロしてドラマを見るのだって自由だ。

逆にお金がなければ、人生は途端に不自由なものになる。

どれだけ「自分は幸せな人間だ！」と言い聞かせようと、お金がなければ「やりた
いけど我慢しなければいけないこと」が山ほど出てくる。

旅行に行くなら体力があって若いうちがいいと思いつつも結局何年もずっと旅行にいけない。

お金があれば助かったかもしれない保険外の先進医療を受けることができない。

どうにか家族を食べさせていくことに精一杯で、1年に一度の結婚記念日でもお金がかかるプレゼントやサプライズをしてあげることができない。

だからこそ真の自由を獲得するためにはお金の自由は必須だ。

時間の自由

二つ目が時間の自由だ。

これについても改めて解説しなくても「必要だよな」と気付いてる人も多いことだろう。

エリート企業でいくら出世してお金の入りが多くなったとしても激務でまともに自分の時間が取れないようでは自由とは言えない。

企業から案件をできる限り受けてギチギチに詰め込んでいたころの私がこれだった。

1日15時間労働。風呂、食事、睡眠以外の時間は全て働いていた。収入は月に100万円を超えていたが、使う暇もなくただただキーボードを叩き続ける生活に絶望していた。

もしあなたに家族がいて、最愛の娘の運動会がある日に

「ごめん！明日急に大事な商談が入っちゃった。絶対に外せないから、娘の運動会行けないや...」

と家族に伝えたらどうだろうか。

娘を悲しませることになり、家族関係に亀裂が入りかねない。お金があっても、時間に縛られている限り自由な状態とは言えないだろう。

だから、お金の自由に加えて時間の自由も当然必要だ。

精神の自由

私が提唱している真の自由を実現するためには『精神の自由』も必要になる。

これは

「自分のしたくない仕事はしなくていい」

「上司からの理不尽な詰めにストレスを感じなくていい」

「収入がなくなる不安に怯えなくていい」

という話だ。

例えば、明らかに損する粗悪物件の投資マンションを「絶対儲かりますよ！」と嘘ついてお客さんに売っていけば、まともな感性を持った人なら心が荒んでくる。

(俺、やっていることこれでいいのかな...)という罪悪感が心の奥底でどうしても消えないはずだ。

私の友人は不動産屋に就職して年収は20代半ばで1500万円を超えていたが「取り扱っている商品が客を騙している気がしてもう売りたくない」と思い悩んで病んだのちに別の業界に転職した。

退職が決まりオフィス出社最後の日には「これでやっと詐欺まがいの投資マンションを売らなくて済む」というホッとした気持ちが強かったそう。

あるいは上司が近づいてくるだけで身体がこわばって胃がキリキリしたり血の気が引いたりするような感覚が頻繁に起こるようでは、精神の自由がまるで満たされていない。

起業家に限った話にはなるが「自分の稼ぎがなくなってしまうのではないか」という心配や不安も当てはまる。

今は毎月100万円稼げていたとしても

「今後も同じように稼げるのだろうか？」

「もし急に来月売上がゼロになって家賃を払えなくなったら？」

「10年や20年後も稼ぎ続けられるのだろうか？」

などと不安が隣り合わせではとても自由とは言えない。

本当の自由を実現するためには仕事内容や人間関係のストレス、そして売上がなくなるリスクを限りなくゼロに近づけていく、といった『精神の自由』も必要になってくるのだ。

場所の自由

そして最後が場所の自由だ。

自分が行きたいときに、好きなところに行ける。何らかの義務で場所に縛られていない。これも自由には必要なことである。

都内の本社に週5で出勤する義務がある状態では好きなときに旅行に行くこともできない。

商社などに就職すると飛ばされる先が海外のこともある。

タイやマレーシアやマニラであれば住みやすいのでいいと思うが、アフリカのコンゴなどに転勤が決まったらどうだろう？

いつ紛争が起こるかもわからず道路のわきには当たり前のように死体がころがっているような国だ。

身の危険と隣り合わせのためコンゴには申し訳ないが居住地としては不向きだろう。

東大の同期でエリート企業に就職したあと、僻地に転勤が決まった同期たち8人は1人残らずもれなく全員Twitterの裏垢を作って愚痴をつぶやいている。

やはり自分で自由にすごす場所を選べないというのは自由からは程遠い状況だろう。

これらを踏まえて、真の自由を実現するためには場所の自由も必要なのだ。

そして、この四つの自由を満たし真の自由を実現するためには『真の自由を実現できる働き方』を選ぶところから始めなければいけない。

働き方を間違えてしまうと、真の自由は実現されないのだ。

エリート企業で出世するのもお金の自由は手に入るかもしれないが、他の3つの自由は実現しない可能性が高い。

まず時間が圧倒的に足りない。特にコンサルファームなどは激務だ。ストレスを抱えて鬱になる人もいる。場所もオフィスの所在地に縛り付けられるからだ。

自分でビジネスを立ち上げた場合も、社員をたくさん雇って大きな企業にしても、やはり4つの自由は満たされない。

お金の自由は手に入ったとしても、毎日オフィスに出社することになり、時間の自由も場所の自由もない。

売上が下がったら社員たちを食わせていけなくなるプレッシャーと隣り合わせで息つく暇もない。

だからこそ4つの自由を満たせる働き方を意識的に考えてその道を選ぶ必要があるのだ。

では、真の自由を実現できる道とは一体なんなのか？本書の後半部分でしっかりと解説しているので、最後まで飛ばさずに読み進めてほしい。

前編：お金の章

ほんの数十年前よりはるかに簡単になった独立・起業・副業

ほんのひと昔前までであれば自分でビジネスを始めるためには、数千万円や時には数億円の初期投資をして世の中を変えてしまうほどの革新的なモノやサービスを作るか、お店を運営したりするしか選択肢がなかった。

革新的なモノやサービスを作るというのは、例えば「メガネ型のスマートフォンを開発する」「薬局に行かなくても医師が発行したQRコードで街中で薬を買えるようになる自販機を作る」など、世の中にまだ存在しないサービスを作る必要がある。

しかし、難易度が高すぎて、これからビジネスを始めたい人に革新的なサービスを生み出すビジネスは不向きだ。

あるいは学習塾、カフェ、バー、コンビニなどのお店を開くという選択。

学習塾であればビルの部屋を借りて教師をそろえて生徒を集めればいい。カフェならお店を借りておしゃれな内装にしてコーヒーを作る機材をそろえて看板を出せばいい。

これらのビジネスなら、先ほどの革新的なサービスを生み出すよりはまだ成功確率が高いが、それでも難易度は高い。それに失敗すると大きな借金を抱えるリスクがある。

仮に、秋葉原に学習塾を開くとしよう。

塾だから生徒がたくさん入るだけの広さの部屋を借りる必要があり、それだけで家賃に月50万円ほどかかる。

敷金・礼金や内装などを含めると部屋を借りる初期費用だけで500万円は必要だ。

さらに教師を雇う必要がある。

一人当たり月に25万円かかるとして3人雇ったらそれだけでも月75万円だ。

家賃と教師への給料を合わせて毎月125万円の費用がかかる。

毎月125万円の売上を出してようやく赤字を脱することができるのだ。

いきなり初めて挑戦したビジネスで月100万円以上売り上げを出すこと自体がそもそも無茶な話だ。あまりにもハードルが高い。

仮に生徒があまり集まらなくて、月25万円の売上にしかなかった場合、口座から100万円が消えていくのだ。この状況が3ヶ月続いたら300万円の赤字になる。

店舗経営がいかに難しいかがおわかりいただけるだろうか。

これは塾でもコンビニでもカフェでも同じだ。

実際、過去にセブンイレブンのオーナーで数千万の借金を背負い自己破産したのち失踪、家庭は崩壊したような事例もある。



弁護士ドットコム

<https://www.bengo4.com> > 労働

7月11日、元セブンオーナーは遺体で見つかった店の跡地に ...

2019/09/11 — 遺体がセブンイレブンの日に見つかったこともあって、献花スペースには「自害」とする文書などが置かれ、ネットにも自殺という情報が流れている。



ビジネスジャーナル

<https://biz-journal.jp> > 企業ニュース

セブン本部から無理言われ自殺、借金1千万円背負わされ ...

2020/01/29 — セブン本部から無理言われ自殺、借金1千万円背負わされ...FC店オーナーの地獄。2020.01.29 19:10. 写真・文=粟野仁雄/ジャーナリスト. セブン-イレブン ...



リテラ

<https://lite-ra.com> > ビジネス > 企業・経営者

本部に追い込みかけられ...セブン-イレブンオーナーの自殺者が ...

しかも、オーナーたちは借金まみれになって自殺にまで追いこまれるケースも続出しているという。「セブン-イレブン加盟店オーナーの自殺の噂は、私もこれまで何件も耳にし ...



まとめ

<https://matomame.jp> > ニュース

【悲報】向かいに同じセブンイレブンを出店され、長男が自殺

2023/12/11 — 今年3月31日で閉店した「セブン-イレブン東日本橋1丁目店」（東京都中央区）のオーナー齋藤敏雄さん（60）が、本部から2月末に閉店の通知を受けた後に ...

JFA FCコンビニ調査研究のデータによると、

- コンビニオーナー自殺者1,200人以上
- コンビニオーナー自己破産者 5,000人以上
- コンビニオーナー行方不明者 6,000人以上

という数字も出ている。

先ほどの事例がたまたまニュースになっただけで、他にも同じように人生が狂い家庭が崩壊した人が何千人といるのだ。闇が深い。

ほんの20年や30年前であれば自分でビジネスをする場合、このような自分の人生と命をかけた一度きりのギャンブルを行うほどの多大なるリスクを背負う選択肢しか用意されていなかった。

しかし、時代は令和の現在、ビジネスに挑戦するさいの金銭的リスクはほぼ0になった。

今の時代だからこそできるツイッターを使ったコンテンツビジネスという手軽に取り組める令和のドル箱

幸いなことに今の時代の我々にはネットというあまりにも便利な文明の力がある。

現代の我々には**Twitter**を使ったコンテンツビジネスで稼ぐという、金銭的リスクのない最高の稼ぎ方が存在するのだ。

Twitterは無料で使うことができる。コンテンツも**Brain**や**Tips**といったプラットフォームを使えば今日から無料で作ることができる。

金銭的なリスクはゼロと言っても過言ではないくらいだろう。

リスクをほとんど背負うことなくビジネスに挑戦できるうえに、上手く軌道に乗ればコンビニオーナーの数倍稼げてしまうかもしれない。

事実、コンビニオーナーの平均年収を調べると600万～700万だが現時点でも私はその3～4倍は稼いでいる。

起業初心者は間違っても初期費用が数百万円かかるビジネスに手を出してはいけない。もっと効率的に稼げる方法が存在する、というたった一つの情報を知っているか、知らないかだけで、その後の運命を大きく左右する。

世界のどこにいても自由自在に稼げる

ツイッターを使ったコンテンツビジネスはネットに繋がってさえいればどこでも稼げるため場所の制約が一切ない。スマホとパソコンとwi-fiさえあればOKだ。

私は東京に友達が多いのですぐ会えるように渋谷を拠点にして、タワマンに毎月何十万円も払っているが、田舎に引っ越しても全く変わらず今月も何百万円と同じ金額を稼ぐことができる。

きれいな海が見える沖縄に家を借りて、海の波音を聴きながら眺めて都会の喧騒と無縁の生活を選ぶことだってできる。

家を契約せずその時の気分でヤドカリのように身軽に移動し、日本の各地を転々としながら生きていくことだって可能だ。

(実際、私が過去にお世話になった人は1年半以上、定住することなく日本全国のホテルを転々としながら暮らしていた)

海外の物価の安い国ならプール付きタワマンの絶景の30階の家でも月5~6万円で住むことができちゃう。海外に引っ越して生活を楽しむのだから一つの素敵な選択肢だろう。

ここで伝えたいことはツイッターを使ったコンテンツビジネスは「住む場所が自由」だからこそ自分の住みたいところに誰に文句を言われることもなく気兼ねなく住める。

会社員のように会社の近くに住む必要もない。満員電車で押し込まれて出勤することもない。家でもカフェでもホテルでも仕事ができるからだ。

最終的に自動化が可能

そしてツイッターを使ったコンテンツビジネスは、動画編集やプログラミングなど他の選択肢と比べて強烈な強みがある。

それはただお金を稼げるだけでなく、自動化まで可能なビジネスモデルであるところだ。

コンテンツビジネスは、価値を無限に複製できるからだ。

価値が複製可能とは、どういうことだろうか？

事例を出すなら

✔ 家庭教師

と

✔ 東進の先生

の違いを考えてみるとわかりやすい。

まず家庭教師は授業の度に生徒の家に行って勉強を教えなければいけない。

先月に40万稼いでいようと「仕事疲れちゃった。今月は休みたい」とサボればその月の稼ぎは0円になってしまう。

稼げる金額にも頭打ちが来てしまう。

仮に時給1500円で1日16時間、365日毎日働き続けるとしても1年間で稼げる金額は876万円だ。

一方で東進の講師はどうだろうか。1回カメラに向かって渾身の授業を撮る。自分の授業を動画コンテンツするわけだ。

後はそれを全国の受験生がお金を払って受講してくれれば、東進の講師に一定の金額が自動で入ってくる。

このようにコンテンツは一回作り込めば一切手を加えずとも、何度も何度も無限に価値を複製できるため、最小の労力で最大の利益を作ることができる。

「お金は汗水垂らして稼ぐもの」というお金稼ぎの常識が根本からくつがえるような話だろう。

あなたもツイッターを使ったコンテンツビジネスを学び、コンテンツを作れば不労所得を作ることが可能だ。

例えば、本書もコンテンツだ。

本書の内容をコンテンツにしなかった場合、毎回カフェで1人1人マンツーマンで丁寧に解説してたら私は毎日カレンダーに予定を書き込んで時間通り外に出かけなければいけない。とても現実的ではない。

しかし、このように電子書籍というコンテンツにすることによって、後はあなたのようにそれを手にとって学んでくれた方々が私からの教えをインストールすることができるようになっている。そして一部の方が有料のコンテンツも買ってくれる。

私は他にもより実践的なノウハウをみっちり知りたい人のための講座をいくつか用意してある。その講座であれば、今回の電子書籍をさらに上回る稼ぎにダイレクトに繋がる学びを届けることができる。

東進と同じく授業料として講座に金額が設定されているので、講座を受けた人は私からみっちりノウハウを学ぶことができるし、私のもとには一人ひとり教えることなくお金が入ってくるのだ。

これがツイッターを使ったコンテンツビジネスのすごさだ。

時代を超えて稼ぐ本質的なビジネス力が身につく

ツイッターを使ったコンテンツビジネスだが、単なるスマホで片手で出来るチマチマとしたお小遣い稼ぎだと考えている人も多いが、本質を大きく見誤っている。

ツイッターを活用したビジネスを行うということはマーケティングに関する一連のスキル全てが隙なく磨かれる。延長線上で上場企業にマーケティングのコンサルが出来るほどの本質的なビジネススキルが身につくようになるのだ。

マーケティングという言葉だと示す範囲が広くていまいちイメージがつきにくいかもしれないのでこう言い換えよう。『商品売る力』だ。

見込み客がどういう時にどういう心理状況になり、次にどういった情報を与えれば「この商品がノドから手が出るほど欲しい...」と思うようになるかのスキルがだんだんと身についていく。

すると英会話スクールでもトレーニングジムでも何でも見込み客を呼び、そして商品を買ってもらいお金を払ってもらえるようになる。

私の場合は最初のきっかけはツイッターを使ったコンテンツビジネスで培ったスキルで赤坂のオフィスビルに入っている年商500億の某上場企業にすら新規事業のマーケティングのコンサルを担当している。



具体的な社名は伏せさせていただくがこのオフィスビルにあるとある企業だ。

ツイッターを使ったコンテンツビジネスとは比較にならない規模の会社だが、やっていることはほぼ同じである。

身近なツール、Twitter。そして手軽に取り組めるTwitterを使ったコンテンツビジネスだが、ハードルが低く簡単にとりかかれるからといってその中身を侮るなかれ。

もちろん「別にお金が稼げれば規模なんてなんでもいい」という人は全く問題ない。ツイッターをポチポチやってお金を稼ぎ続ければOKだ。

逆に「最終的に大きなビジネスをやりたい。」という野望がある人も、安心してほしい。

ツイッターを使ったコンテンツビジネスに必死に取り組んだ先に、やがては数百億円規模の壮大なビジネスを動かすことだってあなたが自由に選べるようになるのだ。

『稼げなくなるリスクを限りなくゼロにする』ことで精神的自由まで達成すると得られる『究極の自由』

ここまで解説してきた内容に従って、本書を手にとってくださったあなたにはぜひとも4つの自由の全てを達成することで究極の自由を手にしてほしい。

そして4つの自由を実現する上で最も重要なことは『稼げなくなるリスクを限りなくゼロに近づけていくこと』だ。

精神的な自由のパートで「いつ稼ぎがなくなるか心配で落ち着かない」といった内容を話した。

なぜなら『稼げなくなるリスクを限りなくゼロに近づけていく』ということ実現していないと、年収3000万円を稼いでいても常に心が休まらないからだ。

もう少し深掘りして解説していこう。

今は年収3000万円稼いでいたとしても、たった一つのビジネスに依存していたらどうだろう？

ある日朝起きてなにげなくスマホを開いたら一通のメールが届いていて「あなたのアカウントを停止しました。」と急に稼ぎ頭のアカウントがBANされることもある。

たった一つのビジネスに依存していたら、そのビジネスが稼げなくなった瞬間に収入が激減する。

だからがむしゃらに稼ぐ金額を増やすことを目指すだけでは駄目ということである。最終的に『稼げなくなるリスクを限りなくゼロに近づける』ところまで目指して頑張っって突っ走っっていく。

世の中のビジネスに挑戦する90%以上の人は一時的に100万円以上稼げるようになったあと、まるでこの世の全てを手に入れたかのように調子に乗ってしまい、いつの間にか姿を消っしていく。

繰り返しになるが大事なことは『稼げなくなるリスクを極限までゼロに近づけること』だ。

時代を超えた普遍的な力を身につけること、何かへの依存を減らすこと、最終的に収益源を複数に分散すること。といったことが根本的な解決策になってくる。

ツイッターを使ったコンテンツビジネスを実践する中でそんな魔法のような力が自然と身につっっていく。

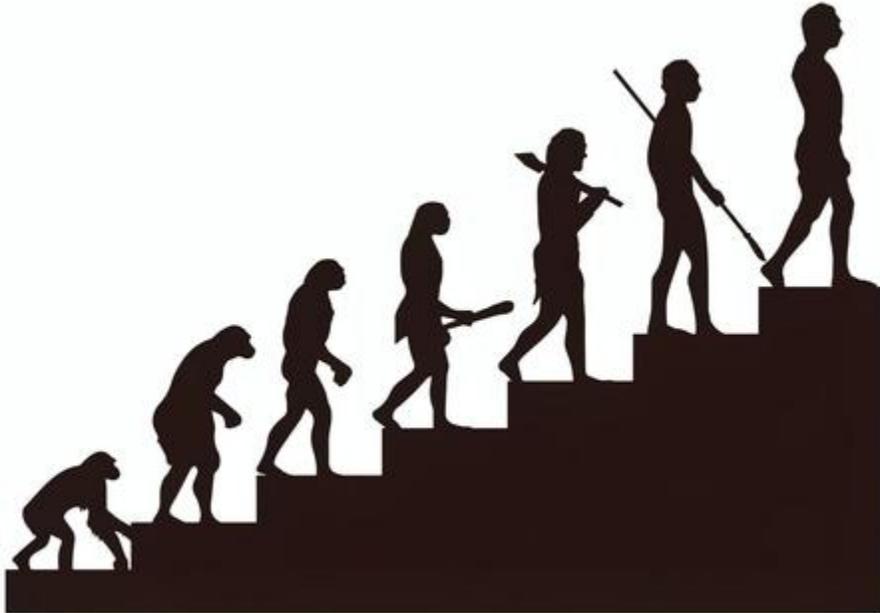
なぜならマーケティングが理解できるようになるからだ。

先ほどマーケティングというのはわかりやすく言えば「モノを売る力」だと説明した。

そして、物を売る力というのは時代を超えて稼ぎ続けることができ一生きっぱぐれることがない『本当の安定』が手に入る。

なぜならば、物を売る力は、つまりは人間心理を動かす力であり、これは時代が変わろうとも変わるものではないからだ。

私たちの生きている100年程度で人間の本能は変わらない。



今の時代の人が「このアクセサリー、あの芸能人も使っているものだよ。」と言われるとちょっと欲しくなるのと同じように、平安時代の人だって「この着物はあの立派な貴族の〇〇様と同じものだよ」と言われるとちょっと欲しくなっただろう。

今の時代の人も服屋で買うかどうか迷ってた服が「これでラスト一点なんですよ〜」と言われると欲しくなるように江戸時代の人だって買うかどうか迷っていたぞうりが「これ最後の一個なんですよ〜」と言われると、やはり欲しくなっていたことだろう。

つまり、物を売る力を身につければ一生食いつぱぐれることがない。時代の変化に左右されない不変的な力だ。この力を使えばまるで打ち出の小槌のように一生莫大なお金を生み出し稼ぎ続けることができるようになる。

『モノを売る力がある』というのは本当に強い。

モノを売る力があれば一つのビジネスだけではなく、複数のビジネスに収益源を分散させるレベルまで成長することができる。

実際私は自分のツイッターアカウントとメルマガの収入だけではなく、複数の収入源を持っている。今後もまだまだチャンスを見つけるたび収入源はどんどん増えていこう。

仮にどれか一つの収入源が潰れたとしても残りの複数の収入源が残っているから、収入がゼロになるリスクはない、という状態だ。

あなた自身も最終的に『稼げなくなるリスクをゼロに近づけていく』ように頑張っていけば、会社に雇われていなくても生涯ずっと稼ぎ続けられる盤石な状況を作ることができるだろう。

もちろん、最初是一个のビジネスの収益を伸ばすことから始めるべきだ。

複数のことに時間と努力が分散されてしまうと結局どれも中途半端になってしまい挫折してしまう。

だから最初是一个の収入源のことだけを考え、がむしゃらに伸ばそう。

本書を手にとってくださっているあなたには一个の収入源が伸びて月100万円以上稼げるようになったところで、そこで天狗になってしまうような浅いレベルの人間で終わってほしくない。

さらに収入源を分散させ『稼げなくなるリスクを限りなくゼロに近づけていく』という広い視野を持ち、よりレベルの高いゴールまで突き進む高い志をぜひ持っていていただきたいと思う。

第一部のまとめ

第二部に進む前にここまでの内容をまとめておさらいしておこう。

まず、何にも縛られない本当に自由な人生を手に入れるためには4つの自由を満たす必要がある4つの自由は

①金銭の自由

②時間の自由

③場所の自由

④精神の自由

である。この4つの自由が満たされてこそ本当の意味で何にも縛られないストレスと一切無縁の人生を送ることができる。

ここまでの解説で正しい方向性を踏まえ、行動に移していけるかどうかで今後のあなたの未来は180度変わったものになるだろう。

自由な人生は、まるで親鳥が口の中まで餌を運んでくれるのをただ口を開けて待ってるだけのヒナ鳥のように、行動を起こさない人のもとにはやってこない。

自由な人生を求め、挑戦した人のみが手に入れることができる。まずは今の会社の本業を続けながら副業という形で始めるのでも立派な前進だ。ぜひ今日からどれだけ小さくてもいいので行動を起こしてみしてほしい。

後編:思考の章

ほとんどの人は今よりもっと自由になりたい、今よりもっと幸せになりたいと思っている。一方で、ほとんどの人は自分が自由になれる可能性を自ら捨てている。

自由になれる道を自分から捨てるなんて、にわかには信じがたい話だろう。一体どういうことなのか？

ほとんどの人は「こんな人生だったらいいのにな。」ということをぼんやりと考えている。

休みの日を自分で自由に決められたら。目覚まし時計に叩き起こされることなく存分に寝ることができたら。満員電車に乗って家と会社を往復する日々から抜け出せたら。居酒屋で金額を気にすることなく頼むことができたなら。

気が合う親友とだけ関わることができたら。大きくてカッコいいタワーマンションに住めたら。ブランドものの腕時計を身につけることができたなら。

そんなことを考えながら毎日決まった時間に起き、決まった場所に出社し、決まった仕事を行い、決まった職場の人間と付き合い、決まった日に休み、決まった給料をもらい、同じような1年を重ねていく。

それはなぜだろうか？

「今の日本がそういう社会だから」「今の会社の給料が決まっているから」「自分には何もスキルがないから」「今から頑張ったところで無駄だと思っているから」「自分は裕福な家庭の出身ではないから」

それっぽい理由を挙げればキリがないが、これらは全て表層の問題にすぎない。実は根本の原因はもっと別のところにある。それは『思考』だ。

なぜかと言うと、根本に持っている思考が全てを決定するからだ。

「自分もビジネスに挑戦してみればきっとうまくいくに違いない」と自分で自分の可能性を信じていければ、いても立ってもいられず体が勝手に動いて行動に移していれば、自由な人生を引き寄せることができる。

一方で「自分がやっても上手くいかない気がする」「どうせ頑張っても無駄だ」「自分は自由な人生を送れない側の人間だ」というような思考を持っていると、結局行動に移すこともなく今と変わらない未来が訪れる。

ほとんどの人は「結局のところ自分は自由な人生は手に入らないのだ。」という思考を手放さない。自分自身が自由になれる可能性を心の奥底で否定しているのだ。

例えば、居酒屋でサラリーマンが「仕事やめたいよな～」「自由になりたいよな～」といった愚痴を話している場面にあなたも遭遇したことがあるだろう。

彼らは口先では仕事を辞めたい、自由になりたいと言っている。しかし実は心の奥底では自分が本当に仕事を辞めて自由になれるとは1ミリたりとも思っていないのだ。

彼らの本音を言い表すならばこうだ。

「仕事に追われずお金もあって自由な人達っていいよな。羨ましい。けどそんなの大物芸能人や日本を代表する会社の社長たちのようなごく一部の天才にしかできないようなことで、俺とはもはや別の人種、別の世界に生きる人たちの話だ。」

「周りを見ても同じくそこそこの人生でもそれなりに楽しそうにやっている同僚や先輩がたくさんいる。俺も自由になりたいなんて大それた夢を見ないで、彼らと同じようにこのくらいで満足して人生を送っていく方がいいんだ。」

「まあでも俺ら頑張ってるよ。社会人たるもの、汗水たらして働いて家族を支えてこそ一人前だ。汗水たらして働かないで、ラクしてお金持っているヤツなんて悪いことをしてるに違いない。俺らはちゃんとやるべきことをやっているよ。それにたしかにお金といいキツイ仕事といい我慢は多いけど、人生ってそういうもんだろ？周りの皆も我慢して生きているわけだし。」といった具合で励ますのだ。

もしこんな思考の彼らが本当に自由な人生を手に入れることができるチャンスを目の前にしたとしても「俺は自由になっちゃいけない人間なんだ」と心の奥底で思い込んで行動ができない。

まるで自分に自由になる資格がないような気がして「どうせ俺は自由になれないんだから期待するだけ無駄」と勝手に決めつけてしてしまっただけチャンスを掴む前から手放したり、チャンスを目の前から逃げ出してしまうのだ。

「自分はどうせ自由になれないに決まっている」という思考を変えない限り、せっかく自由になれるチャンスがあってもわざと手放し、自ら不自由な人生に飛び込んでいくことだろう。

しかし「自分なんて自由な人生を送れるわけがない」という思考は今の日本の教育、そして閉塞的な今の時代の社会に漂う他人の足を引っ張り、自分より他人が幸せな人生を送ることを阻止する文化によって作られたただの思い込みに過ぎない。

親戚や知り合いにビジネスのプロが1人もいなかったとしても、インターネットの発展により家から一番近いコンビニまで30分歩くような山奥からでもビジネスのプロが発信している情報に気軽にアクセスできるような時代だ。

あなたが「自由な人生を手に入れたい」と思ったとして、それを罰するような法律もない。

都合のいい言葉や常識なんて全部無視して、あなたはあなた自身の自由な人生を手に入れるために思う存分突き進んでいいのだ。

では、なぜ「自由な人生を手に入れたい」ということに罪悪感を感じてしまう思考を多くの人が持っているのだろうか。

それは日本の教育では文句を言わない円滑な歯車として動いてくれるよう洗脳され教育されるからだ。

アリとキリギリスの読み聞かせを行い「コツコツ汗水たらして働いたものは成功し、コツコツ働かなかったものは没落して死に絶えてゆく。」という価値観を刷り込む。

親も先生も誰も「働かないでお金を稼げて余暇を楽しめる大人になりなさい。」なんて言わない。

「将来はいい会社、立派な会社に勤めて世のため人のために毎日頑張って働く大人になりなさい。」と声をかける。

真面目な人なほどの受験戦争の中で血の滲むような努力をして、当然のようになるべくいい大学を目指し、就活を始めればみんな同じスーツを着て、面接ではあらかじめ考えておいた志望理由を「御社ヲ希望スル理由ハ～」と壊れたマシンのように同じ話を繰り返す。

本人が望んだかどうかに関わらずサラリーマンになって社会の歯車に組み込まれていく。

はっきり言って異常だ。

この洗脳に染まった状態だと、自由になりたいなと口ではぼやいたとしても心の奥底では「どうせ無理」と思っているし、せつかく自由をつかめるチャンスが目の前にあってもたちまち逃げ出してしまう。

もし仮に本当に自分が自由な人生を手に入れることができたとしても、何か理由を探しては再び忙しい状況に身を置こうとする。

こんな状況ではどれだけ正しいノウハウを知ろうとも、どれだけ口先で自由になりたいなと薄っぺらく言っていたとしても決して自由な人生を手に入れることはできない。

だから、まずは自由な人生を手に入れるための正しい『思考』を身につけることから始めなければいけない。

幸いにも本書を手にとったあなたは安心してほしい。自由な人生を手に入れるために必ず持つべきいくつかの思考をここから詳しく解説していく。

『価値提供』ができれば1秒も働かないニートでも月収100万円

まずは「汗水垂らして苦勞して働かないとお金は手に入らない」「働かざるもの食うべからず」「給料は大變さに比例する」といった大間違いな洗脳から捨てていこう。

そもそもビジネスの世界において「収入」とはどのようにして決まるのか。

先ほど挙げたようにどれだけ苦勞したか、だろうか？どれだけ長時間拘束されて労働したか、だろうか？

どちらも違ふ。ビジネスの世界において収入は「価値提供」によって収入が決まるのだ。つまりは世の中の人々から「ありがとう！」を集めるということだ。

当たり前だが、通りすがりの人にいきなり「1000円ください！」と声をかけてもまずくれないだろう。お金を無条件で貰うことはできない。

人からお金を貰うには『価値提供』する必要がある。

あなたが世の中に対して与えた価値提供が大きければ大きいほどより大きな金額をあなたは手に入れることができる。

学生時代のバイトや社会人になってからのサラリーマン気分が抜けきっていないと「何時間働いたらいくらもらえる！」という時給の考えに染まってしまうが、この考えは今すぐ捨てるべきだ。

なぜならビジネスの世界では、労働時間と提供した価値の大きさは比例しないからである。

100時間も働いたのに世の中に与えた価値提供が10しかない人間と、30分しか働いていないのに世の中に与えた価値提供が100の人では、30分だけ働いた人の方が稼ぎが大きくなるということだ。

具体的な話をしていこう。

今の時代の時価総額一位の会社に、Appleがある。



Appleは日本の大企業を何社も集めても勝てないほど莫大な金額を稼いでいる世界一の企業だ。

ではなぜAppleがそんなに儲かっているのかと言うとそれだけ世の中に役立つこと、価値提供をAppleはしているからだ。

Apple社が開発しこの世に生み出したスマートフォン、iPhoneはもうこれなしでは我々は生きていけないほど便利だ。

新作のiPhoneは今や20万円弱もするが、「20万円払ってでも欲しい！」と人々が思うようなものをAppleは作り、世の中に届けている。

人々は「こんなハイテクで複雑な製品を作り届けてくれてありがとう！Appleのおかげで私達は便利な日々を過ごせています。」という気持ちでお金を払い、Appleは儲かっているわけだ。

Amazonだって同じだ。Amazonの社長のジェフ・ベゾスは今となっては世界一位、二位を争うお金持ちである。



彼の作ったAmazonのサービスはとても便利だ。家から一歩も出なくても布団の中で寝転がりながらスマホでポチポチポチとすることでなんでも欲しいものが家に届く。

しかも在庫もたくさんあるのでお店で買う場合と違って「わざわざお店まで行ったのに商品がなくて欲しいものが買えなかった！」ということもない。しかも店頭よりちょっと安い。あまりにも便利すぎる。私もAmazonヘビーユーザーで2日に1回はお世話になっている。

便利だからこそ世の中のたくさんの人がこぞってAmazonを使うわけで、そこでの手数料でAmazonは社長が世界一の大富豪になるほど儲かっているのだ。

ここまで解説したら『お金稼ぎとは価値提供の対価である』ということが綺麗事でもなんでもなくビジネスの世界における真実であることがかなり腑に落ちたことだろう。

合わせて「お金は汚いものである」という間違った洗脳も捨てよう。

本書を読んでいるあなたはきっと「お金が欲しい」と思っていることだろう。

では、変にごまかすのではなく、ここではっきりと認めてしまおう。

「私はお金が欲しいです！」と。

「私はお金が欲しいです！」と思うことにはなんの問題もない。罪悪感を抱く必要もない。

我々は日本で生まれ育ってきて幼少期から「お金は汚いものだ」ということをあの手この手で何回も繰り返し聞かされ洗脳されてきているので、お金を稼ぐのは悪いことだというイメージを植えつけられている。

しかし、そんな洗脳に染まった状態でこれからお金を稼いでいくことができるわけがない。だから、ここでお金に関する汚いイメージも捨ててしまおう。

と言うより、お金の汚いイメージも何もそもそもお金は別に汚いものではない。あなたが今までの人生でお金を使うときの気持ちを思い出してほしい。果たしてそんなに嫌な気持ちになっただろうか？

例えば、レストランに行って美味しい料理を食べたとする。そしたら「美味しい料理をありがとうございました。」という気持ちを込めてお金を払うだろう。

美味しい料理を食べるだけ食べておいて最後に「お会計になります」と言われたときに

「え？このレストランお金とるの？タダかと思ってた...汚いな。金の亡者かよ」と毒づくようなことはないはずだ。

そんなことを言う人がいたら、お店が提供してくれた価値(料理)に対して正当な対価を払おうとしないのだから、そっちのほうが意地汚い。

あなた自身の今までの経験を思い出してみてもわかる通り、金銭のやりとりが発生すること自体、なにも汚くないのだ。

逆にレストランのオーナーのようにお金を貰う側に立って考えるとお金を稼ぐことができるというのはそれだけ世の中に価値提供できた証だ。

自分の口座に振り込まれた金額は、いわば世の中にどれだけ価値提供できたかの成績表なのだ。

だからお金を稼ぐことを恥じるのではなく、むしろ「お金を稼げていないこと」の方を恥じるべきだ。

そして、価値提供の方法にはさまざまな工夫の仕方があり、毎日1秒も働かないニートでも月収100万円が実現可能だ。

労働時間を増やさずとも価値提供ができる最も分かりやすいのが東進の先生の映像授業(コンテンツを作ること)であることは第1章にて既に述べた通りだ。

ツイッターを使ったコンテンツビジネスは価値提供の自動化が可能であり、ひとたびコンテンツやコンテンツを届ける自動化の仕組みを作り込んでしまえば、後はそこに人々を集めるだけで勝手にあなたの発信で学びになったと思う人が続出する。

そして勝手に「お金を払ってでも有料コースでもっと学びたい」と思う人も中には現れ、有料講座内でさながら東進の先生の授業のごとく価値提供が自動で行われ、あなたのところにお金が入ってくるわけである。

ビジネスの世界において収入は価値提供の量で決まるという大原則と、価値提供は労働時間を増やさなくても増やすことができるという部分をしっかりと理解して、「汗水垂らして苦勞して働かないとお金は手に入らない」「働かざるもの食う

べからず」「給料は大変さに比例する」といったとんちんかんにもほどがある洗脳は今日を最後に捨て去ろう。

1勝9敗でも自分の理想の未来に向かって進み続ける

自由な人生を実現するためには「自由な人生を実現したい」と心に決めて、何度でも諦めず挑戦し続ける気持ちを持つことだ。

多く人は人生というゲームをまるで1回成功すると1ポイント貯まり1回失敗すると-1ポイントされてしまうゲームだと勘違いしている。

だから仮に3回挑戦して3回とも上手くいかないと-3ポイントされ、このマイナスをプラスに持っていくには4回も連続で成功しなければいけない。

4回の成功をつかむ途中でもまた失敗を繰り返すだろうことを考えると、きっと自分は挑戦するほどどんどんマイナスが大きくなってしまふのだ。そして今のうちに挑戦をやめてしまふ。

しかし実際のところは、全く違うゲームであることを知ってもらいたい。

人生をゲームに置き換えたとき、たった1回の成功が9回の失敗を全部帳消しにして、余りあるほどのプラスをもたらしてくれることがある。

日本一のお金持ちであるユニクロの柳井正社長も『1勝9敗』という本を出している。

一勝九敗

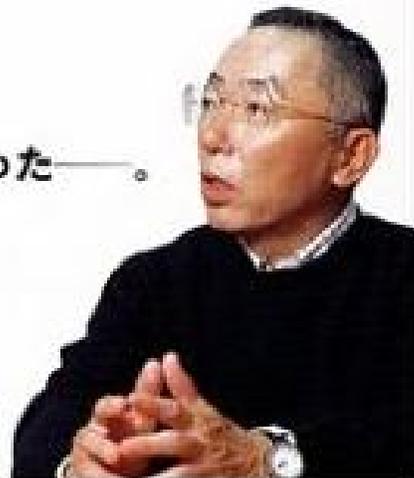
柳井正

ユニクロファーストリテイリングCEO



ユニクロも失敗ばかりだった——。

新潮社 定価：本体980円（税別）



内容は「9回失敗したとしても、たった1回の成功が全てを覆せるほどの大きなプラスをもたらしてくれる。」という内容である。

日本一のお金持ちであるユニクロの柳井正社長ですらこう言っているのだ。たかが1回や2回挑戦した程度で上手くいくと思っている方が間違っている。

人生は成功するまで何回でも挑戦していいゲームだ。

かの有名な任天堂のスーパーマリオブラザーズというゲームがあるだろう。



ボタンを押してダッシュしたりステージの穴を飛び越えたり、敵を踏んづけで倒したりしながらゴールを目指すゲームだ。このゲームには残機が5機や10機と設定されていて、残機が0になってしまうとゲームオーバーになってしまう。

人生をスーパーマリオブラザーズに例えるならば、残機は無限。寿命という制限時間のみだ。

私たちの人生はいくらでも失敗し放題であり、失敗したとしても、もう1回挑戦すればいいだけの話だ。スーパーマリオブラザーズと違って残基が尽きてゲームオーバーになってしまうこともない。

唯一のルールとしては寿命という時間の制限だけ。

人間は誰一人として死から逃れることはできない。世界一の富豪のビル・ゲイツでもたとえ100億円、100兆円お金を積もうともいつか訪れる死から逃れることはできない。

逆を言えばルールはこの制限時間だけだ。制限時間が許す限り人生というゲームでは何度でも挑戦し放題なのだから「失敗するのが怖いから」と言って挑戦しない人より、10回100回と失敗を繰り返しても諦めず挑戦を繰り返す人が最終的にはゲームをクリアして、ピーチ姫を救うこと(成功を手にする)ができるのだ。

逆に失敗するのが怖いからと挑戦をやめてしまえば、スーパーマリオで言うならばステージ1-1の最初の場所から動かない状態でそのまま死が訪れる瞬間を待つだけでも同然となる。

あなたが成功したいと思っているならば、失敗を恐れず挑戦しよう。

自由な人生は、自分が自由な人生になることを諦めた人のもとには絶対にやっ
てこない。お金にも時間にも人間関係にも精神的負担にも何にも縛られない人
生を実現したいならば、その夢を目指し追い求め続けよう。

自分の人生で『やりたくないことリスト』を作り目指す未来を明確にする

本書を読み終わった後に必ずあなたにやっていただきたいワークがある。これは
忘れずに本当にやっていただきたい。むしろやらなければせっかく時間をかけ
て本書を読んだのにその効果が半減以下になってしまうほどだ。

そのワークは、あなたにとって『人生でやりたくないことリスト』を思いっただけ書く
ことである。

人生でやりたくないことリストを思いっただけ書くことで、自分の人生の目指すべ
き方向が分かり、取るべき行動もわかるようになるからだ・

ここできっとあなたはこう思ったことだろう。

「普通はやりたいことリストじゃないの？なぜやりたくないことリストを書くの？」と。

なぜかというと、やりたいことリストを考えると4つの自由が達成されない可能性が
極めて高いこと、逆にやりたくないことリストを考えると自動的に4つの自由がほ
ぼ達成されるからだ。

やりたいことリストを書くとなると色々な夢を思い描くことだろう。毎月100万円稼
ぎたい。家族にお金の不自由なく年に4回海外旅行に行けるような生活をプレゼ

ントしたい。カッコよくて天井があいて気持ちよく風を感じられる赤いスポーツカーに乗りたい...などなど。

自分のやりたいことばかりリスト化していくと、やりたいことリストを達成する中に、自分のやりたくないことが含まれることがある。

例えば、年収3000万稼げたとしても激務で毎日深夜3時まで働く必要があり1年のうち360日は働かなければいけないような状況だったら？

はたまた自分でビジネスをやってみて年収数千万稼げるほど上手くいったものの、連絡が来たら夜の24時でもすかさず返さなければいけないような生活だったら...？

きっと「こんなはずじゃなかった」と頭を悩ませるだろう。

一方でやりたくないことリストを考えたらどうだろうか。「毎朝決まった時間に起きたくない」「どう考えても自分より仕事ができない上司にへこへこしたくない」「時間に追われて遅刻しそうでスーツを着ながら駅まで猛ダッシュして汗でびちょびちょになるような状況になりたくない」などなど。

こうしてたくさん自分がやりたくないことを書き出しているうちに、自分がどういう人生を目指したいのかが明確になってくる。

実際に私もやりたくないことリストは思いつきたび更新しており、現在ではなんと202個もある。

その内容は「早く時間がすぎてほしいと思うようなつまらない仕事をする事」「平日の仕事と一瞬で過ぎ去る休日とで人生を殺してしまうこと」「通勤する必要があること」といったような人生単位での大きなテーマとなる内容から「洗濯や部屋掃除や皿洗いをすること」「水でビチャビチャになったユニットバスに時間がないからと靴下を履いた状態で入ること」といったような小さなことまでとにかく思いつく限り書いてある。

私が初めてやりたくないことリストを作ったのは2017年、私がまだ21歳だったころの話だ。

やりたくないことリストを作ったことで人生でどんなことを避けたいのかが明確になったからこそ、解決するために行動を起こすことができた。

繰り返しになるがやりたくないことリストを書き出すというワークをやらないと、せっかく時間をかけて本書を読み切ったのにその効果が半減してしまうのでこのワークは必ずやっていただきたい。

その上で余力があればやりたいことリストも合わせて書くのも良いだろう。きっとあなたのモチベーションが上昇し今後のアクションを起こすマグマのごときふつつつとしたエネルギー源として役立つはずだ。

『自分の目指すライフスタイルの』成功者の真似をする

そしてあなたが自由な人生を手に入れるにあたって大切な次の項目は『自分の目指すライフスタイル』を体現している成功者の真似をすることだ。

誰かの真似をすることは、当然同じ結果にたどり着き同じように上手くいく可能性が極めて高い。日本の茶道や武道の世界でも守破離と言われるようにまずは既に先人たちが作り上げた基本の形をひたすら守る。

ビジネスの世界では守破離どころか守守守守守守破離ぐらいでちょうどいい。自とにかく実際に上手くいっている成功者の真似をするのが手っ取り早い。

スマホだってこの世界で一番最初に発明したのはAppleだが今はGoogleやソニー、サムスンやシャオミなど様々な会社がスマホを生産し販売している。

各会社の製品ごとにカメラが特に優秀だったりゲームをするのに特化した性能を持っていたりと多少の個性はあるが、土台の部分はiPhoneを参考にしている。



板状の本体にモニターはタッチパネルにする。そして左右に電源ボタンと音量調整ボタンがある形式だ。中身を分解してみたら本体を構成する基本的なパーツは似たようなものだろう。

フリマアプリ市場ではメルカリが一番人気だが、元はといえば楽天のラクマというフリマアプリの方が先に作られていた。この2つのアプリ両方をインストールして使ってみるとわかる通りほぼ同じアプリではないかと感じるぐらい似ている。

全部ラクマがもともとやっていたことを後からメルカリが真似したわけだ。

ビジネスにおいて『自分より何歩か先を行っている者を真似る』というのは素早く成果をだすための正攻法である。

そしてあなたが自分の目指す未来を実現すべく成功者の真似をするにあたって大事になってくるのが冒頭で紹介した『あなたの目指すライフスタイル』を体現している成功者の真似をするということだ。

ここで自分が目指しているのと異なるライフスタイルの成功者を「有名だから、お金を持っているから」と真似をしてしまうと、仮にその人と同じように成功できたところであなたは幸せを感じることはできない。

自分と違うスタイルの成功者と同じルートで頑張るとどうなるか？

その人にとっては耐えられることでも、あなたにとってはやりたくないことだった場合、結局やりたくないことに追われる人生になってしまうからだ。

例えばあなたが上司にヘコヘコするのも嫌だし「これやっという」と言ってもなぜかできないポンコツの部下と関わるのも嫌だとする。そもそも働くの自体イヤで明日にでも仕事をやめたいと思っているとする。

しかし「サイバーエージェントの社長って有名な会社だしすごい人だしお金たくさん持っているから真似しよう」とサイバーの藤田さんの真似してしまうと、何人も社員を雇って上司や部下のマネジメントを行いながら「週110時間働くのも当たり前

前」という思想を持って会社の規模を大きくしていく戦い方を真似することになってしまう。

仮にあなたのビジネスが上手く軌道に乗ってお金は今の何倍も稼げるようになったとしても、「なんか思っていたのと違うな」と感じる幸せからほど遠い人生になってしまうことは想像に難くないだろう。

まずはとにかくあなたの思う理想のライフスタイルを実際に実現している成功者を徹底的に真似することだ。

「こんな人生を送れたら幸せだな」という人生が実現するまではとにかく『あなたの目指すライフスタイル』を体現している成功者を目標にしよう。

貯金より投資、そして貯金の金額より『お金を生み出せる自分のスキル』に重きを置く

あなたが普通に働く10分の1以下の労働量で、毎月100万円以上のお金を稼ぎたいと思うなら、お金を貯金することより『投資』に使うことの方がはるかに重要である。

貯金残高がいくらあるかは全く気にしなくてよい。『お金を生み出せる自分のスキル』を身につけることの方がよほど大事だ。

ここで言う投資とは株やFXのことではない。使ったら消えてなくなってしまうものが『消費』で、お金を使うことで将来的にお金が増えて返ってくるものが『投資』だ。

例えば居酒屋で食べるご飯やビールにハイボール。これはただの消費だ。一時的に楽しいだけで終わりである。また渋谷や新宿まで来たついでに服を見てみて気に入った服を買う。これも消費だ。



一方で、プロカメラマンとして生計を立てていきたい人が15万円の一眼レフの本格的なカメラと30万円のプロ仕様のレンズを買うことは投資だ。

カメラマンの仕事で毎月20万円稼げるようになればカメラとレンズ代の45万円は2ヶ月と少しで回収できる。

いつも古いパソコンで仕事をしていて読み込みが遅く仕事のスピードが落ちて
いるからとパソコンを30万円かけて最新のサクサクのMacBookに変え、ホームセ

ンターで買った7000円の安い椅子を使っていたが腰が痛くなってしまったので15万円のアーロンチェアを買ったとする。



これにより作業効率が上がり今まで4時間かかっていた仕事が3時間で終わるようになったならば、同じ時間でより多くの仕事をこなすことができ単純計算で収入は25%アップする。これも投資だ。

自己投資の繰り返しで使ったお金以上に稼げるようになり、東大卒エリートサラリーマンの数倍もお金を手にしたのが私である。最初のWebスクールは80万円だったし、その後に受けたコンテンツビジネスのコンサルは300万円だった。

確かに金額だけ見ると一見高いように見えるかもしれないが、80万円のWebスクールのおかげで毎月100万円以上稼げるようになったのだからWebスクールに使った80万円が何十倍にも増えて返ってきている。

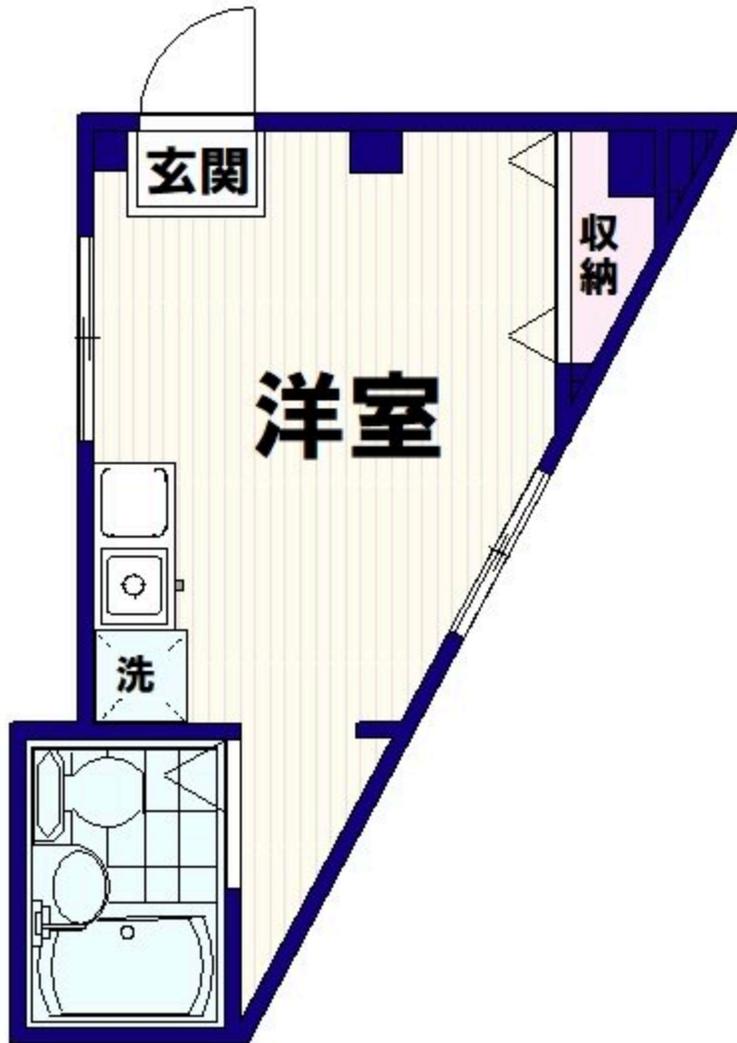
人によっては自己投資にお金を使うというのは怖いと感じる人もいるかもしれない。しかし冷静に考えてみれば数万から数十万程度のお金を使うことはリスクでも何でもない。長い人生で見れば誤差のうちだ。

投資にお金を使うことを恐れるあまり現状を変えることができず、会社のルールや世間の常識に縛られて今後一生を過ごすことになる方がはるかにリスクである。

自己投資によって自分自身がお金をいくらでも生み出せるスキルを身につけてしまえば、お金はいくらでも稼げるようになる。だから私はビジネスが毎月100万円以上ずっと継続して安定して稼げるようになるまでとにかく自己投資を優先した。

月収100万円を突破した後もその後も1年以上、18平米しかないユニットバスの築30年のボロアパートに住み続けた。





(実際に住んでいた家)

何年も同じ服を気回してヨレヨレの服だったので、外見は月収100万の人間にはとても見えていなかったと思う。

生活費をのぞいて余ったお金はとにかく自己投資で学びに使っていた。その学びによってさらに稼げるようになることを確信していたからだ。

さらに稼ぎが増えたタイミングで「ここまで来たらさすがにちょっとぐらい贅沢してもいいだろう」と思ってタワマンに引っ越したが、それは月収が200万円を突破してからのことである。

一方で、せっかく収入が増えたにも関わらず自己投資することを怠ったばかりに7年経った今でも月収30万円で停滞している東大の元同期もいる。

学生にして月収40万と高い収入があったにも関わらず自己投資して自分でお金を生み出すスキルを身につけるということをしなかった。結果、そこから収入が増えることはなかった。

私から彼に仕事を依頼していたのも約1年ほどで打ち切りとなり、そこから彼は自分でお金を生み出すことができず普通に日本の企業に就職し、現在20代後半で月収30万円ほどで停滞している。

第二章まとめ

多く人は「もっと自由になれたら」などとぼんやりと思っはいるものの、結局今のままでは死ぬまで自由な人生を手に入れることができない。

その理由はなにか？ ずばり『思考』である。だからこそ思考を変えなければならぬ。

まず「価値提供さえできてれば毎日1秒も働かないニートでも月収100万円は到達可能である」ということだ。お金は汗水垂らして働かないともらえないというのは全くもって見当はずれということである。

そしてあなたが自由な人生を手に入れたいと願うならば、「自分は自由な人生を手に入れる！」と決意し、そして1勝9敗でも最後に上手く行っていれば全てOKという心構えで諦めずに自由な人生を追い求め続けることだ。

逆に失敗が怖いからと挑戦をやめてしまえば、残りの人生が死ぬまで会社と労働に縛り付けられた人生になることがその瞬間に確定する。

そして本書を読み終わったあと必ずあなたにやっていただきたいワークがある。それは「人生のやりたくないことリストをひたすら書き出す」だ。紙とペンを用意して書き出すのでも良いし、あなたがいつも使っているお気に入りのスマホのメモアプリがあるのならそれにとにかく片っ端から書き出すのでも良い。

人生でやりたくないことリストをしっかりと明確にしないまま、「とにかく今よりお金を稼げれば自分は幸せになれるに違いない」といったように間違った方向に努

力をしてしまうと、お金は稼げたものの娘の運動会を見に行く時間が全然ない...
といったような状況に陥ってしまう。

そして次の思考法が「あなたの思い描く理想のライフスタイルを送っている成功者」の真似をすることだ。自己流で成功を目指すよりすでに理想を体現している成功者の真似をしたほうが成功する可能性は高い。

無限にある選択肢の中から自分でゼロから正解を探し出すより、大幅なショートカットをすることができる。

ここで大事になってくるのが「あなたの思い描くライフスタイルとできるだけ近い」という部分である。

例えばサイバーエージェントの社長は「週110時間労働をしてでも会社を伸ばすべきだ。」といった思想の人だ。あなたがサイバーエージェントの社長の真似をしてしまうと、確かにお金は稼げるようになるかもしれないが仕事が忙しすぎて趣味も旅行にも時間を使えない人生となってしまう。

あなたが仕事大好き人間ならなんの問題もないのだが、自由になりたいのなら「自分ほとにかく旅行に行きたい」「家族と世界中旅行に行きたい」というようなあなたの思い描くライフスタイルとなるべく近い人の真似をすることだ。

そして最後に持つべき思考回路が、あなたが今後普通の人の1/10の労働時間で、普通の人の3倍や4倍、それこそ毎月100万円以上のお金を手にして時間にもお金にも縛られない人生が欲しいのならば、とにかく「お金を生み出せるスキルを自分に身につけること」を最優先すべきだ。

今の口座残高は関係ない。そしてお金を使ったら消えてしまう消費ではなく、使ったらその分増えて返ってくるが見込まれる『投資』に使う必要がある。

自分で稼げるスキルを身につけることができれば、会社の給料に頼らずとも月50万でも100万でもいくらでもお金を生み出すことができるようになる。

そしてスキルを身につけるための投資となるお金は惜しんではいけない。

毎月50万円や100万円といった金額が稼げて今まで必死に節約して毎月2万円ずつちまちま貯金していたのが一体何の意味があったのかと感じてしまうほど半年間であっという間に300万や500万口座残高が増えるような人生があなたを待っている。

終わりに

自由な人生を手に入ると今までの人生って実はまだ映画館で本編に入る前の予告シーンみたいなものにすぎなかったんだな。むしろこれからが人生の本番なんだな。と心から実感することができる。

毎日目覚ましをかけずに12時すぎに目覚めて、職場に行く準備をする必要もなく、ダラダラとスマホでTwitterやYouTubeを見てから1時過ぎにベッドから冬眠明けのクマのようにのろのろと抜け出してもいい。

午前中からシャキッと過ごしたいからとタワマンの高層階で人に家の中を見られる心配もなくカーテンを全開にしたまま寝て、6時や7時にアラームをかけて外の世界が明るくなるのと同じぐらいのタイミングで起きて活動する日々を送ってもいい。

目が覚めても待っているのは憂鬱な満員電車と仕事ではなく、なんでもあなたの思うがまま自由自在に使っていい1日の時間だ。早起きも苦しくて辛いものではなく、自ら望んでできるものに生まれ変わるだろう。

クリスマスでも誕生日でもなんでもない日に、旅行に行きたいとなんとなく思ったからという理由だけでその日に飛行機のチケットを取って気が向いた場所へ行きたいがまま旅行に行くことだってできる。今まで特別な時に気合いを入れて数

年に1回できるかできないかといったイベントが、毎日いつでもしたい時にできるようになるのだ。

行きたい場所に行って、その日に近くで空いてるホテルを値段を気にせずとればいいし、荷物だって忘れたものがあったとしても現地で買えばいいのだから重たいキャリーケースなんか準備しなくても身軽にリュック1つで久しぶりに実家に帰るくらいの気持ちで手軽に世界中どこだって行くことができる。

実際私は海外旅行に行くときはたとえ数週間という長めの期間であっても重たいキャリーケースは持たず荷物はリュックのみである。

自由が手に入れば文字通り人生はあなたの自由なのだから、やりたいようになんでもやることができる。

ずっと存分にやりたかったゲームを朝から日が暮れるまで思い切りやりこむ日々を送ってもいい。

ずっと憧れていた趣味を今からプロのレッスンをつけて始めることだってできる。

ワインについて詳しい大人の色気のある人間になりたい、ワインソムリエの資格を取りたいだったり、カメラの勉強をしたい、自分で一眼レフを買って旅行に行った時や友達の誕生日会などをまるでPVのように自分で編集できるようになりたい。だったり人それぞれ色々あることだろう。

そういった夢はいつからでも成し遂げることができる。

多くの人は年齢を言い訳に「もういい大人なんだから」「まあ俺の人生ぼちぼちだしこんなもんでいっか。」と、自分の本当にやりたかったことから目を背け「自分の人生はほどほどのこれでいい」と納得するよう必死に自分に言い聞かせるが、そんな思い込みは今すぐ捨ててしまうべきだ。

私の母親は、恩返しとして私が毎月お金を渡すようになってから、足腰の衰えなんてどこ吹く風という様子で冬の山形に旅行に行つて雪の降る銀山温泉に時間を気にすることなくゆったりと浸かつて満喫するようになった。

ついこないだまでイタリアに旅行に行つてたかと思えば、また10日間ほどスケジュールをあけて今度はスペインに旅行に行つていたりする。いつの間にか私よりよっぽどヨーロッパに詳しくなつていた。

そして海外旅行をしていたらやっぱり翻訳アプリを使うのではなくて自分で英語を喋りたいという気持ちが湧いてきたようで、英会話のマンツーマントレーニングに通いながら楽しそうに英語を勉強している。

他にも陶芸レッスンに通つてみたりフラダンスを始めてみたりとすごく色々なことにチャレンジしていて本当にイキイキとしている。

特にフラダンスはドハマリしたらしくて発表会にも出ているしなんと今度ハワイのフラダンス合宿にフラダンス仲間と行つてくるようだ。心なしか5年ほど前より目も輝いているように感じるし、歳をとつた今の方がむしろ顔のシワも減つたように感じる。

1つ断言できるのは、人生何歳からであっても「本当はこう生きたいな」と思ったその日から、その夢は実現していけるということだ。

自由は諦めてしまった人のもとには決してやっこない。しかし自由になりたいという自分の心の声としっかりと向き合い、挑戦する者のもとには、遅かれ早かれ必ず自由で楽しい人生はやってくる。

大学生なりたてのころ、自由な人生を夢見ていた私からすれば夢物語の話だが、もはや今の私にとっては毎日自分の自由にすべてを決められる人生がもはや当たり前となっている。

「仕事は毎日しなければいけないもの」「より多くのお金を稼ぐためにはより汗水たらして働かなければいけない」「仕事を優先するためには娘の運動会を見に行くことができなくてもやむを得ない」「納得いかないことがあっても上司には靴を舐める勢いでへこへこしなければいけない」

こんなものは全部幼少期から植え付けられた洗脳である。

太陽が東から上り西から沈むのは絶対的な真実であり変えようがないが、日本の社会での一般的な常識なんてものは真実でも何でもない。

時代によっても常識というのは手のひらを返したようにくるっと変わるし、今の同じ時代ですらギリシャ人は毎日3時間しか働かないしアラブの国では一夫多妻制が当たり前であるように国によって常識はまるで違う。

ただの思い込みを絶対の真実だと勘違いしてはいけない。

私の周りには毎日やりたいように過ごしている人が両手で数え切れないほどたくさんいるが、みんなほんの3年や5年前まではただの何でもない人だった。

私たちの共通点はただ一つ。自由になりたいと心から自由を求め、リスクの少ないインターネットという領域で正しい方法で自分でビジネスを始めたことだ。

学歴だって関係ない。関わる人の中には世間的にはいわゆるFラン大学と呼ばれるような大学の人や高卒の人だってたくさんいる。

それでありながら私の東大の同級生で普通に常識に縛られて就職していった人たちの2倍や3倍、時には10倍の金額をみんな平気で稼いでいる。

私は一応東大卒で、東大卒と言うと信用が得られやすいので表に出してはいるが、学歴関係なく周りの人たちが稼いでいるのを見ると、正直受験勉強を頑張ったのは無駄だったなど感じることもすらある。

意欲とやる気さえあればインターネットで誰でも情報を手に入れられるようになった今の時代、もはや自由というのは限られた特権階級の人だけのものではない。誰でも、いつからでも自由な人生を手に入れることができるのだ。

ありきたりな言葉にはなるが、人生は文字通り一度きりである。よく見る言葉だし薄っぺらい言葉だと思っていつものあなたなら素通りしてしまうかもしれない。

しかし本書を最後まで読んでくださったあなたはちゃんとこの言葉の意味を噛みしめて実感してほしい。

人生は文字通り『一度きり』なのだ。寿命が来てしまったところで「今回の人生の反省を生かして次回の人生ではもっと器用に生きよう」と思っても遅すぎる。次のチャンスはないのだから。

もしあなたが今の納得いかない生活を人生を今後も続けるのではなく、自分の大切にしたい家族、自分の心躍る趣味や夢に情熱を注ぎたい、没頭したいと思っているならぜひともその夢に向かって頑張してほしい。

どんなに小さくてもいいから行動を起こしてほしい。誰でもできる簡単なことに思えることでもいい。行動を起こすことで次の方針が浮かび上がってきてさらに次のステップに進めるし、結局やらない人は一步も前に進むことができない。

なにかアクションを起こさなければ昨日をコピー&ペーストしたような変わり映えのしない明日が再びやってきて、その繰り返いで命の火が尽きてしまうときがやってきて人生は終わる。

しかしどれだけ小さくてもいいから何かアクションを起こせば、そのアクションをきっかけとして違う明日がやってきて、その積み重ねで今のあなたからしたら夢物語に思えるような時間にもお金にも人間関係にも縛られない生活が現実のものとなる。

最後に

本書をここまで読んでくださって本当にありがとうございます。もし本書を読んで何かを感じたのなら、その炎が消えてしまわないうちに何か行動を起こしてみてください。

行動に移さなければ同じ日常が明日からもまたやって来るだけです。

いま、あなたがやる気あるうちに、ほんの小さなアクションでも起こすか、起こさないかが、今後あなたがお金にも時間にも一切不自由しない経済的に自立した人間になれるか、それともなれないのかを左右することでしょう。

簡単な一歩としてまずはぜひ本書の感想をX(Twitter)で書く、ということをやってみてください。すごく手軽にできるし、あなた自身にとってもちょっとしたアウトプットとなるので成長に繋がります。

またX(twitter)で感想を書いた人には過去Brainにて1980円の有料で販売した『経済的自由を達成する5ステップ完全インストールセミナー』もプレゼントしています。



200名以上の方に手にとってもらい、大好評のセミナーだったので、こちらで学ぶことでまた更にやる気も出てくるでしょう。

次を取るべき打ち手もまるで霧が晴れていくかのようによりくっきりと見えてくるはずです。

感想の書き方については、電子書籍プレゼントページで解説してあるようにやまーのX(Twitter)の固定ツイートに引用RTで書くだけ。とても簡単です。やまーが通知で気づくのでDMにてセミナーのプレゼントを行います。

ここまでお読みいただき、ありがとうございました。